

<プログラム>

11月2日(水)		11月3日(木)	
体育館	教室	体育館	教室
開会式		連絡・注意	
㊥合唱コンクール	㊤第1分科会	講演 浦山桐郎氏	
㊥㊤第2分科会		映画「いちご白書」	個人発表 展 示 映画「いちご白書」(視聴) ㊤(社会科教室)クラス8冊
昼食			
	㊥文化講座その1	個人発表	
㊤合唱コンクール	片づけ・移動	プラスバンド部発表	各教室後片づけ
	㊥文化講座その2	閉会式 ・合唱コンクール 優秀クラス演奏 ・表彰式 ・閉会式	
		後片づけ	

〔IV〕 保健室における生徒の実態について  
第二報現状の分析

今 治 富 美 子

1. はじめに

前回<sup>1)</sup>保健室の実態についてのあらましを述べた。その中で気付いた保健室における問題点をさらにほりさげ、それらの問題点がどのようにして起るのかをつかむために、現状の分析を試みた。

1) 紀要 21 集

2. 方 法

昭和53年1月11日から18日までの土、日、祭日を除く5日間、養護教諭(筆者)の行動分析を記録とテープレコーダーによって行ない、また利用者の利用状況をアンケートを含む調査によってできるだけ客観的に検当した。

3. 結 果

(1) 養護教諭の行動分析

結果は表一Iの通りである。ここで示した教値は、5日間の総時間数 42.3時間に対する百分率で表わして

表一I 行動分析による時間配分

項 目		%	計	
保健管理	処置・指導	25	57	
	調査・整理	19		
	予防接種	6		
	健康観察	1		
	室内整備	6		
安全管理	校内巡回	2	2	
保健組織活動	生徒保健委員会	2	3	
	学校保健委員会	1		
保健教育	保健学習	授業	6	8
		授業の準備	2	
その他	会議	3	30	
	部活動	13		
	その他の職務	7		
	休 け い	7		
計		100	100	

いる。まず日常活動を大別すると、保健管理が最も多く57%、ついでその他の30% (休けいを除けば23%)、保健教育8%の時間配分になっている。本来の保健管理以外の時間が約40%を占めている。

これを国立養護教諭養成所協会による「養教の教務」の分類で示すと、看護・臨床医学25%、健康管理37%、教育8%、その他30%となった。「その他」が比較的大きく、その2分の1を「部活動の指導」で占めている。

## (2) 保健室来室者の内訳

5日間の来室者は総数173名であった。その内訳は表一Ⅱに示した通りである。なお、表は来室の目的別で分類した。

表一Ⅱ 保健室来室者の内訳

		人数	%
処置	外科	52	30
	内科	21	12
	その他	1	1
相談	身体面	10	6
	精神面	2	1
	父兄・教師	3	2
その他	つきそい	30	17
	雑用	10	6
	その他	44	25
計		173	100

何らかの処置を要した者は40%でその4分の3は外科的傷害が占めている。

生徒の相談者は12名でそのうち8名が女子であった。精神面の相談者2名も女子であった。

処置あるいは相談いずれも該当しない者が約50%あり、

その中でつきそいまたは雑用など一応来室の目的が推定できた者がその半数で、目的の明らかでない者が半分を占めていた。

## (3) 主な事例

次に観察期間における主な事例をあげてみる。

中3女子：男子生徒に鼻孔へパチンコの玉を入れられ来室した。深部に玉のあることを確認し、摘出を試みたが成功しなかったため、耳鼻科医に依頼した。つきそいは職員に依頼した。

中1女子：4限の体育の授業で人と衝突し頭をうった。昼休みに頭痛を訴えて来室した。養護教諭が5限授業だったので保健室で休養するように指示した。その間に嘔吐をしたので、脳圧亢進のおそれがあると判断し、5時限終了後つきそって外科医の診断を乞うた。幸い異常はみられなかった。

中2女子：午後1時ごろ腹痛を訴えて来室した。学校医が来校していたので診察をして急性虫垂炎と判明した。直ちに父兄に連絡をして、

外科医に受診させた。その日のうちに手術をうけた。

以上三例である。

第一例は別の職員の協力が得られて対応がうまくいった例、第二例は養護教諭が授業で保健室にいなかったため対応がおくれた例、第三例は学校医が居合わせていたために直に外科医に紹介でき速やかに処置ができた例である。

これらの例は養護教諭の活動を補う態勢をつくることが非常に大切なことを示している。

## 4. ま と め

以上の結果をまとめてみると、本校のように中学・高校が併設されていると両者の保健行動のちがいがよく解る。来室者の約70%を中学生が占め、処置の件数も母集団の小さい中学生の方が多い。付きそいも中学生に多いが、女子は中・高の区別なく付きそいを伴って来室する。ところが目的のはっきりしない来室者一すなわち全来室者の約4分の1の生徒の約70%が高校生で占められている。この中学生と高校生の行動のちがいは大変興味深いものである。つまり、中学生は来室の動機が解りやすいが、高校生はこれが解りにくい傾向がある。来室の目的がはっきりしない者の中にはいわゆる常連がいて、ある生徒は一日に一回必ず来室する。この目的のはっきりしない生徒が、本当に何も目的がなくて来室するかどうかは問題である。これらの生徒は来室者の25%を占めているので、彼らを規制すればもっと保健室は静かで、処置、指導などスムーズに出来るだろう。しかし、この中にも問題をもった生徒が少なくないと思われる。

一例をあげると、

高2男子：最初は腹痛を訴えてきた。その日は薬を与えて帰したが、次の日から2日つづけてとか1日おきとかひんぱんに保健室に来るようになった。ただすわっているだけで、チャイムがなると教室へもどって行く。「どうしたの」ときけば、「うんちょっと」というだけで別にこれといった訴えはしなかった。1カ月ほどして、彼の悩みをうちあけてくれた。それから、時々保健室へ来て話をしたりするが、以前のようなことはなくなった。

このように、一見来室の目的がはっきりしない生徒の中にもカウンセリングや指導を必要とする生徒が含まれているので、保健室は彼らをうけいれることができる雰囲気が必要だと思う。

それらを考えれば、保健管理の時間配分が60%にすぎない現状には問題があるかもしれない。なぜならば

## 保健室における生徒の実態について

それ以外の時間は授業や部活動で保健室を留守にしなければならないからである。その点からいえば、養護教諭が授業や部活動をしていいかどうかは疑問をもたされることだ。しかし、授業やその他の活動を通じてより多くの生徒と接触することや他の教師とより多くの共通性が出ることから考えれば、むしろ養護教諭も積極的にそれらの活動に参加した方がよいと思う。これを可能にするためには、校内の教職員の理解と協力が必要なことはわずか1週間の間におこった3つの事

例からも明らかである。

以上、養護教諭の行動分析、来室者の内訳などから保健室の現状を分析してみたが、その問題点は多く、容易に解決できるものはない。今後も、調査、検討を重ねよりよい保健室のあり方を模索してゆきたいと思う。

**後記：**この報告は第20回東海学校保健学会に校医の戸田先生と共同研究として発表した。